



「12番・合田心平」。今季最終戦となった3月26日のシエイクト戦。現役最後の一戦のスターティングメンバーに、合田選手は名を連ねた。

小学3年生から、この試合に至るまでセッター一筋のバレー人生。高学年になると、うまくするために親元を離れ、下宿も

ばばだけ！
Jリーグ
久原 大輝



現役最後の試合を終え、チームメイトに胸上げされる合田選手 (3月26日)

◎ 心平選手 ありがとう

経験した。崇徳高(広島)進学後は、高速コンビバレーを駆使し、世代屈指の司令塔として名をはせる。大学進学時に広島を離れ、卒業後バナソニックで3年間プレー。2018年に広島へ帰ってきた。

彼を一言で表すと「魂」だ。練習でも率先して声を出し、プレーや態度でチームを常に鼓舞し続ける。そんな貴重な存在であった。己を犠牲にしてスパイカーを生かす姿は、職人の領域に達していた。

現役最終戦でもその技を存分に披露。第1セットを先取したものの、その後3セット連取され有終の美を飾ることはできなかった。ただ、試合後の合田選手はすがすがしい表情だった。同じコートに立ち、悔しそうな表情を浮かべていた新井、坂下両選手にも、彼の「魂」を引き継いでほしい。

この試合に勝利していたら、私は「もう1年プレーしろよ」と心の中でつぶやいていただろう。これから始まる合田選手の第二の人生を、陰ながら応援し続けたい。

(Jリーグマネジャー)